

紳士スーツのコーディネートに関する研究

石原久代・鈴木利賀*・横山寿子

A Study on Coordinates of Men's Suit

Hisayo ISHIHARA, Rika SUZUKI and Hisako YOKOYAMA

緒 言

これまで、「ファッション」というと女性の衣服が中心に取り上げられてきたが、近年、「メンズ・ノンノ」、「メンズ・クラブ」などの男性ファッション誌が多数出版され、特に若い世代を中心に男性の服装もファッション化が進んでいる。

また、職場においても「カジュアルフライデー」などの導入により男性の服装への注目度も高まり、これまでの、いわゆる「どぶねずみ色のスーツ」という言葉に代表される「着ていればいい」という時代は過ぎ去ろうとしている。

そこで本研究では、紳士の仕事着の大半を占めるメンズスーツを取り上げ、その色彩のコーディネートについて検討することにした。

メンズスーツは、形態のバリエーションが少ないことから、色彩の要因が全体イメージに大きく関与してくると考えられ、カラーコーディネートが審美性の評価を大きく左右するといえる。今回は、まず夏季における着用実態を、街頭調査およびテレビ画像により調査し、さらにコンピュータグラフィックスを用いて系統的なカラーコーディネートを作り出し、それらの組み合わせについて官能検査を行い、見る人にどのような印象を与えるかを検討した。

方 法

1. 街頭調査

男性のスーツの着用状況について、予備調査として地域差を検討するために、名古屋市内にある地下鉄の主要な駅である名古屋駅、伏見駅、栄駅、久屋大通駅、丸の内駅の5駅を取り上げて街頭調査を行った。調査は午前8時～9時の間に各駅の降客の中からスーツ姿の男性の写真撮影を行った。これら5駅はいずれも複数の地下鉄が乗り入れており、さらに付近には大きなオフィス街が広がっている。撮影場所は各地下鉄出口の中で最もオフィス街に近い出口周辺とした。撮影時期は1996年7月の中で金曜日(カジュアルフライデーの影響を回避するため)・土曜日・日曜日をはずした曜日の中から晴天の5日間を選んで行った。なお、撮影は5駅ともに同日・同時間内で行った。

写真撮影枚数は全体で698枚、その内スーツ、ワイシャツ、ネクタイともに色彩の読み取りが可能な582枚(名古屋駅103枚、伏見駅175枚、栄駅56枚、久屋大通駅112枚、丸の内駅

*サンデザイン専門学校

136枚)を試料とした。

2. テレビ画面調査

全国的な着用状況を知るために、テレビを利用し、画面に映し出されたスーツ着用の男性の映像をもとに、スーツ、ワイシャツの色彩、およびネクタイの色彩・柄(1. 無地, 2. 縞, 3. 幾何学模様, 4. その他の柄)について調査を行った。色彩については、テレビ画面からの調査であるため、色彩の読み取りや判別の限界を考慮して表1に示したような日本色彩研究所配色体系(PCCS)におけるv(ビビット), lt(ライト), p(パール), d(ダル), dk(ダーク), g(グレイシュ)の6トーンについて、それぞれ12色、および無彩色としてw(白), ltGy7.5, mGy5.5, dkGy3.5, Bk(黒)を加えた計77色の色表を用いて照合した。さらに、着用者の見た目の年齢(30歳未満, 30歳以上50歳未満, 50歳以上)、テレビ業界人(スタイリスト付きと思われる)か否かについても併せて調査した。調査対象テレビ局はNHK総合, CBC中日, 東海THK, 名古屋テレビ, テレビ愛知, 中京CTVの6局であり、特に番組制限は行わなかったが、ニュースなどについての重複画像はできる限り除いた。調査は1998年8月に行い、計700名を取り上げた。得られた結果について、出現状況を把握するとともに、スーツ、ワイシャツ、ネクタイがどのようにコーディネートされているかについて検討した。

3. 官能検査による着装評価

着装評価にスーツ、ワイシャツ、ネクタイの色彩のコーディネートがどのように関与するかを検討するために、グラフィックコンピュータにより各アイテムの色彩変換を行い、視覚判定による官能検査を行った。変換に用いた色彩は、予備調査として行った街頭調査において出現頻度の高かった色彩の中からスーツはdk18(紺), mGy5.5(灰), g8(灰みの黄)の3色を、ネクタイはdk2(暗い赤), dk18(紺), g6(灰みのだいたい), g8(灰みの黄), ltg8(明るい灰みの黄), ltg18(明るい灰みの青), dkGy3.5(暗い灰)の7色を、ワイシャツはW(白), p18(うすい青)の2色を選択した。

実験は、中肉中背の男性モデルにスーツを着用してもらい、それをカラー写真に撮り、カラーイメージスキャナーによりグラフィック専用コンピューター(4D-box)に取り込み、先に選出した色彩にそれぞれを変換し、カラーズライドに仕上げた。

検査は、作成されたカラーズライド42種をほぼ等身大にプロジェクターにより投影し、65名の被験者(本学学生)を用いて「フォーマルな-カジュアルな」、「ハードな-ソフトな」、「調和している-不調和な」、「高級感のある-安っぽい」、「あたたかい-冷たい」、「現代的な-古典的な」、「好きな-嫌いな」の7形容詞対について、SD法による5段階評定で行った。その結果を数値化し、各試料および各形容詞対別に平均官能量を算出し、イメージに関与する要因の検討を行った。なお、実験は流行色との関係も考えられるため1996年11月と1998年7月の2回実施した。

結果および考察

1. 街頭調査結果

スーツにおける各駅別の出現状況を図1に示した。名古屋駅では、dkGy(暗い灰色)の着用者が最も多く34%、次いでmGy(中間の灰色), dk18(紺)が19.4%と続いている。全体的に無彩色である灰色の着用が多いといえるが、中でもdkGyの着用率は全地域の中で最も多かった。また、ltg8, g8などの黄色相の色が約10%出現していることに注目される。伏見駅については、近くに銀行・証券など金融関係の業種が多いこともあってか色彩のばらつきは小さく、

表1 使用色データ

No	PCCS	マンセル値	系統色名	No	PCCS	マンセル値	系統色名
1	v2	4R4.5/14.0	ビビッドレッド	40	dk8	5Y2.5/1.5	オリーブ
2	v4	10R5.5/14.0	ビビッドレディッシュオレンジ	41	dk10	3GY2.5/1.5	ダークイエローグリーン
3	v6	8YR4.0/13.5	ビビッドイエローオレンジ	42	dk12	3G2.0/1.5	ダークグリーン
4	v8	5Y8.0/13.0	ビビッドイエロー	43	dk14	5BG2.0/1.5	ダークブルーグリーン
5	v10	3GY7.0/12.0	ビビッドイエローグリーン	44	dk16	5B2.0/1.5	ダークグリーンニッシュブルー
6	v12	3G5.5/11.0	ビビッドグリーン	45	dk18	3PB1.5/1.5	ダークブルー
7	v14	5BG4.5/10.0	ビビッドブルーグリーン	46	dk20	9PB1.5/1.5	ダークバイオレット
8	v16	5B4.0/10.0	ビビッドグリーンニッシュブルー	47	dk22	7P1.5/1.5	ダークパープル
9	v18	3PB3.5/11.5	ビビッドブルー	48	dk24	6RP2.0/1.5	ダークレッドパープル
10	v20	9PB3.5/11.5	ビビッドバイオレット	49	g2	4R4.0/2.0	グレイッシュレッド
11	v22	7P3.5/11.5	ビビッドパープル	50	g4	10R4.0/2.0	グレイッシュブラウン
12	v24	6RP4.0/12.5	ビビッドレッドパープル	51	g6	8YR4.5/2.0	グレイッシュブラウン
13	lt2	4R7.5/6.5	ピンク	52	g8	5Y4.5/2.0	グレイッシュオリーブ
14	lt4	10R8.0/6.5	イエローイッシュピンク	53	g10	3GY4.5/2.0	グレイッシュグリーン
15	lt6	8YR8.5/6.5	ライトオレンジ	54	g12	3G4.0/2.0	グレイッシュグリーン
16	lt8	5Y9.0/6.0	ライトイエロー	55	g14	5BG4.0/2.0	グレイッシュグリーン
17	lt10	3GY8.5/5.5	ライトイエローグリーン	56	g16	5B4.0/2.0	グレイッシュブルー
18	lt12	3G8.0/5.0	ライトグリーン	57	g18	3PB3.5/2.0	グレイッシュブルー
19	lt14	5BG7.5/5.0	ライトブルーグリーン	58	g20	9PB3.5/2.0	グレイッシュバイオレット
20	lt16	5B7.0/5.0	ライトグリーンニッシュブルー	59	g22	7P3.5/2.0	グレイッシュパープル
21	lt18	3PB6.5/5.5	ライトブルー	60	g24	6RP4.0/2.0	グレイッシュパープル
22	lt20	9PB6.5/5.5	ライトバイオレット	61	d2	4R4.5/6.5	ダルレッド
23	lt22	7P6.5/5.5	ライトパープル	62	d4	10R5.0/6.5	ブラウン
24	lt24	6RP7.0/6.0	パープリッシュピンク	63	d6	8YR5.5/6.5	イエローイッシュブラウン
25	p2	4R8.5/2.0	パールピンク	64	d8	5Y6.0/6.0	ダルイエロー
26	p4	10R8.5/2.0	パールイエローイッシュピンク	65	d10	3GY5.5/5.5	ダルイエローグリーン
27	p6	8YR9.0/2.0	パールパージュ	66	d12	3G5.0/5.0	ダルグリーン
28	p8	5Y9.0/2.0	パールイエロー	67	d14	5BG4.5/5.0	ダルブルーグリーン
29	p10	3GY9.0/2.0	パールイエローグリーン	68	d16	5B4.0/5.0	ダルグリーンニッシュブルー
30	p12	3G8.5/2.0	パールグリーン	69	d18	3PB3.5/5.5	ダルブルー
31	p14	5BG8.5/2.0	パールブルーイッシュグリーン	70	d20	9PB3.5/5.5	ダルバイオレット
32	p16	5B8.5/2.0	パールグリーンニッシュブルー	71	d22	7P3.5/5.5	ダルパープル
33	p18	3PB8.0/2.0	パールブルー	72	d24	6RP4.0/6.0	ダルレッドパープル
34	p20	9PB8.0/2.0	パールバイオレット	73	W	N9.5	ホワイト
35	p22	7P8.0/2.0	パールパープル	74	ltGy	N7.5	ライトグレイ
36	p24	6RP8.5/2.0	パールパープリッシュピンク	75	mGy	N5.5	メディアムグレイ
37	dk2	4R2.0/1.5	ダークレッド	76	dkGy	N3.5	ダークグレイ
38	dk4	10R2.0/1.5	ダークブラウン	77	Bk	N1.5	ブラック
39	dk6	8YR2.5/1.5	ダークイエローイッシュブラウン				

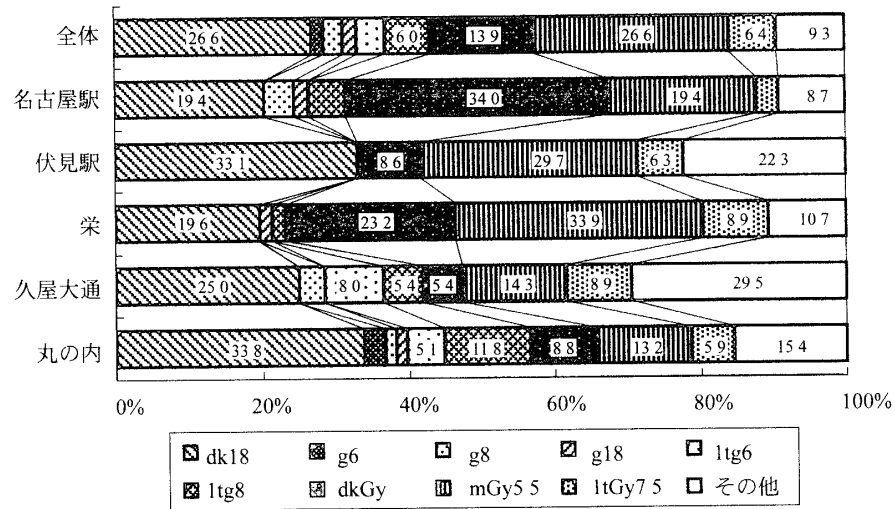


図1 スーツの出現率(街頭調査)

dk18, mGy, dkGy, ltGy (明るい灰色) の4色で77.7%を占めている。また無彩色3色の中で名古屋駅については dkGy の出現が多かったのに対して、伏見駅では mGy の方が多く出現している。なお、dk18 は全地域の中で最も高い出現率を示し、堅いイメージと結びついている。次に栄駅では、灰色が全地域の中で最も多く、約70%も出現しており、その中では mGy、次いで dkGy の順に多く出現している。久屋大通では、dk18 が最も多く出現しているが無彩色である灰色の着用者は比較的少なく、全体的にカラー化の傾向がみられる。中でも ltg6, g8, ltg8 の低彩度の黄色相が多く出現し、さらにその他の色彩も30%近くもあることから出現色数が多いことが伺える。久屋大通は、名古屋、伏見、栄などの最も古い地下鉄である東山線沿線の駅とは異なり、桜通線が乗り入れるようになってから、急速に発展した地域ということで、付近の会社の業種も多岐にわたっていることから、色彩の出現が多様化していると思われる。丸の内駅については、dk18 の着用が最も多いが、ltg8 の占める割合が他の地域よりも多い。また、出現色数も多く、やはり桜通線沿線であることから、久屋大通駅と似た傾向を示している。

次に、ネクタイについて各駅別の出現状況を図2に示した。まず、名古屋駅では ltg8 が最も多く出現しているが、他にも dk4, g18, dk18 など多くの色彩が出現し、ばらつきがみられる。また、伏見駅ではスーツと同様に出現色は限られており、dk18 や灰色系がほとんどを占め、変化のない地味な色ばかりが出現している。また、栄駅では mGy と ltg8 が14.3%と最も多く着用されているが、dk18 や ltg6, g6, dk2 など暖色系の色彩の出現が目立った。久屋大通では、v2 (あざやかな赤) が最も多く出現しているが、v2 以外は低彩度の色彩が多く、色相については、18の青以外はほとんど暖色系の色彩であった。丸の内は調査地域の中で最も出現色数が多く、色相・トーン共かなり拡がりのあるネクタイが着用されている。

ネクタイについても、スーツ同様地域差がかなり認められ、久屋大通駅と丸の内駅は他の東山線沿線の各駅とは異なり、カラー化の傾向が強いと見える。また、同じ東山線沿線であっても、伏見駅については明らかに出現色数が少なく、業種との関係もあつてか無彩色を用いる傾向が強く、紺、灰色の着用率が非常に多いといえる。

2. テレビ画面調査

上記街頭調査の結果から、調査地域によって色彩の出現はかなり異なることが明らかになっ

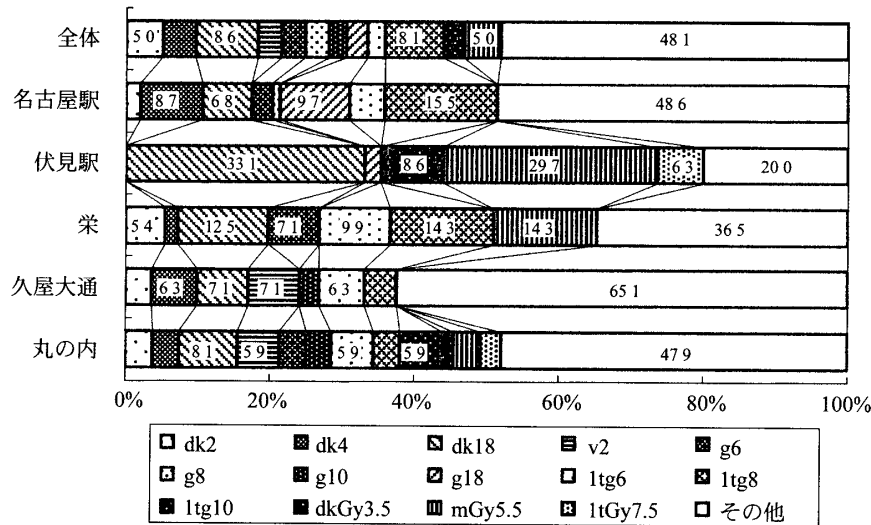


図2 ネクタイの出現率 (街頭調査)

たため、偏りをおさえた調査を行う方法として、テレビの映像による調査を行った。

全調査対象者 700 名の年齢別の内訳は、30 歳未満と思われる男性が 68 名、30 歳以上 50 歳未満が 316 名、50 歳以上が 316 名であり、また、スタイリストが付いていると思われる業界人が 211 名、一般の人が 489 名である。

まず、全対象者のスーツ・ワイシャツ・ネクタイの出現頻度を表 2 に示したが、dk18 の紺色のスーツが 22.3 % と最も高い出現率を示し、次いで mGy (中間の灰色)、dkGy (暗い灰)、ltGy (明るい灰) と無彩色の各色が続いている。この出現状況を色相別でみると、色相番号 18 の青色相が 34.4 % と最も多く、3 人に 1 人は着用していることになる。次いで色相番号 20 の青紫があげられるが 10 % 程度で青との差はかなり顕著である。また、トーン別にみると dk トーンが 32.9 % と最も多く、次いで g トーンと低明度、低彩度の色彩が多く着用されている。

次に、年代別の結果をみると、30 歳未満では、dk18 が 41.2 % と非常に高い出現率を示している。色相別にみると、色相番号 18 の青色相が 48.5 % と他の年代に比べて高く、全体の半数近くを占めており、他の色相の着用者はわずかであった。30 ~ 50 歳については dk18 が 19.3 % と最も高い出現率ではあるが、30 歳未満に比べると着用率は少なく、mGy、ltGy、dkGy といった無彩色の着用者が多く出現している。次に多く出現しているのは dk20 であり、青紫に寄った色彩の着用が 30 歳未満に比べて多いといえる。さらにトーンにおいても高明度・低彩度のペールの着用者が 10 % 近くも出現している点も注目される。50 歳以上については 30 ~ 50 歳とほとんど変わらない出現状況であるが、無彩色の着用者の中で ltGy よりも dkGy の着用者の方が多く出現し、さらに dk トーンも 30 ~ 50 歳より多く着用され、低明度が好まれる傾向が伺える。また、一般と業界の比較については、業界の方が各トーンに拡がりをもって出現しているとともに、色相でも青色相だけでなく、色相番号 8 の黄色相の出現が 13 % 以上もあった。さらに無彩色の着用率も一般の人より高いといえる。

ワイシャツの出現状況について、全体では 77.4 % を W (白) が占め、次いで 11.7 % が色相番号 18 の青系を着用している。30 歳以下では、全体にカラー化の傾向がみられ、白が他の年代より少なく、色相番号 18 が他の年代の 2 倍近く着用されている。逆に 50 歳以上では、白が多く、30 ~ 50 歳では、p8 (うすい黄) が他の年代よりも多いのが特徴的であった。一般と業

表2-1 出現頻度 (v~dk トーン)

1. スーツ (%)																
トーン	v				lt				p				dk			
色相	全体	~30	~50	50~	全体	~30	~50	50~	全体	~30	~50	50~	全体	~30	~50	50~
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0.3	0.3
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.3	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0.3	1.5	0.3	0	0.6	0	0.9	0.3	0.6	2.9	0	0.6
8	0.1	1.5	0	0	0.3	0	0.3	0.3	2.1	2.9	2.8	1.3	1.0	0	0.9	1.3
10	0	0	0	0	0	0	0	0	1.1	0	2.5	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4	0	0.6	0.3	0	0	0	0
14	0	0	0	0	0	0	0	0	0.6	0	0.6	0.6	0	0	0	0
16	0	0	0	0	0	0	0	0	0.6	0	0.6	0.6	0.7	1.5	0.6	0.6
18	1.3	0	0.9	1.9	1.1	0	0.9	1.6	1.1	0	0.9	1.6	22.3	41.2	19.3	21.2
20	0.1	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7.9	5.9	8.5	7.6
22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.3	0.1	0	0	0.3
計	1.6	1.5	1.3	1.9	1.7	1.5	1.6	1.9	6.9	2.9	9.5	5.6	32.9	51.5	29.7	32.0

2. ワイシャツ																
トーン	v				lt				p				dk			
色相	全体	~30	~50	50~	全体	~30	~50	50~	全体	~30	~50	50~	全体	~30	~50	50~
2	0	0	0	0	0.1	1.5	0	0	1.1	2.9	0.3	1.6	0.1	1.5	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0.9	1.5	1.6	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0.6	2.9	0.6	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	3.1	1.5	5.1	1.6	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.3	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0.6	0	0	0	0	0
14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.3	0	0	0	0
18	0.6	1.5	0.6	0.3	2.9	8.8	2.2	2.2	7.9	13.2	7.6	7.0	0.3	0	0.6	0
20	0	0	0	0	0.6	0	0.9	0.3	0.1	0	0	0.3	0	0	0	0
22	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4	0	0.3	0.6	0	0	0	0
24	0	0	0	0	0.1	0	0.3	0	1.0	0	0.9	1.3	0	0	0	0
計	0.6	1.5	0.6	0.3	3.7	10.3	3.5	2.5	15.7	22.1	17.4	12.7	0.4	1.5	0.6	0

3. ネクタイ																
トーン	v				lt				p				dk			
色相	全体	~30	~50	50~	全体	~30	~50	50~	全体	~30	~50	50~	全体	~30	~50	50~
2	0.9	1.5	0.9	0.6	0.4	0	0.3	0.6	0.4	0	0.6	0.3	9.6	13.2	12.7	5.7
4	0.9	1.5	1.3	0.3	0.1	0	0.3	0	0	0	0	0	3.1	1.5	4.4	2.2
6	0	0	0	0	0.4	1.5	0.6	0	0.3	0	0.6	0	2.4	4.4	1.6	2.8
8	1.0	1.5	0.9	0.9	3.6	1.5	6.0	1.6	4.0	7.4	3.8	3.5	1.6	1.5	1.6	1.6
10	0	0	0	0	0.3	1.5	0.3	0	0.6	0	0.6	0.6	1.0	4.4	0.6	0.6
12	0.1	1.5	0	0	0.3	0	0.3	0.3	0.4	1.5	0.6	0	0.3	0	0.6	0
14	0	0	0	0	0.1	0	0	0.3	0.3	1.5	0	0.3	0.6	0	0.3	0.9
16	0.1	0	0	0.3	0.6	1.5	0.6	0.3	0.1	0	0.3	0	1.0	1.5	0.9	0.9
18	3.3	0	4.1	3.2	2.4	2.9	3.2	1.6	1.1	1.5	0.3	1.9	13.4	16.2	10.4	15.8
20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.7	2.9	2.2	3.2
22	0	0	0	0	0.3	0	0.3	0.3	0	0	0	0	0.7	0	0	1.6
24	0.3	1.5	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	2.0	1.5	2.5	1.6
計	6.6	7.4	7.3	5.7	8.6	8.8	12.0	5.1	7.3	11.8	7.0	6.6	38.4	47.1	38.0	37.0

* 「~30」は30歳未満、「~50」は30歳以上50歳未満、「50~」は50歳以上を対象とした。

表 2-2 出現頻度 (g トーン～無彩色)

1. スーツ (%)

トーン 色相	g				d				計				無彩色				
	全体	～30	～50	50～	全体	～30	～50	50～	全体	～30	～50	50～	全体	～30	～50	50～	
2	0.7	0	0.9	0.6	0	0	0	0	1.0	0	1.3	0.9	W	0.3	0	0.3	0.3
4	0.9	0	1.3	0.6	0.1	0	0.3	0	1.1	0	1.9	0.6	ltGy	8.1	5.9	9.8	7.0
6	2.9	1.5	3.2	2.8	0.4	0	0.6	0.3	4.7	5.9	5.1	4.1	mGy	11.1	8.8	10.1	12.7
8	3.1	0	4.7	2.2	2.9	1.5	3.5	2.5	9.6	5.9	12.3	7.6	dkGy	9.1	5.9	8.9	10.1
10	1.7	2.9	1.6	1.6	0.3	0	0.6	0	3.1	2.9	4.7	1.6	Bk	1.1	0	0.9	1.6
12	0.3	0	0.3	0.3	0.3	0	0	0.6	1.0	0	0.9	1.3					
14	0.4	0	0.3	0.6	0	0	0	0	1.0	0	0.9	1.3					
16	1.1	2.9	0.9	0.9	0	0	0	0	2.4	4.4	2.2	2.2					
18	6.0	7.4	3.8	7.9	2.6	0	2.5	3.2	34.4	48.5	28.5	37.3					
20	2.3	2.9	1.9	2.5	0.4	0	0.9	0	10.7	8.8	11.7	10.1					
22	0.3	1.5	0.3	0	0.1	1.5	0	0	0.4	2.9	0.3	0					
24	0.3	0	0	0.6	0	0	0	0	0.6	0	0	1.3					
計	20.0	19.1	19.3	20.9	7.1	2.9	8.5	6.6	70.1	79.4	69.9	68.4		29.9	20.6	30.1	31.6

2. ワイシャツ

トーン 色相	g				d				計				無彩色				
	全体	～30	～50	50～	全体	～30	～50	50～	全体	～30	～50	50～	全体	～30	～50	50～	
2	0	0	0	0	0	0	0	0	1.4	5.9	0.3	1.6	W	77.4	63.2	76.3	81.6
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0.9	1.5	1.6	0	ltGy	1.1	1.5	0.6	1.6
6	0.3	0	0.3	0.3	0	0	0	0	0.9	2.9	0.9	0.3	mGy	0.1	0	0	0.3
8	0	0	0	0	0	0	0	0	3.1	1.5	5.1	1.6	dkGy	0.1	0	0.3	0
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.3	0	Bk	0.3	0	0	0.6
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0.6	0					
14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
16	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.3					
18	0.1	0	0.3	0	0	0	0	0	11.7	23.5	11.4	9.5					
20	0	0	0	0	0	0	0	0	0.7	0	0.9	0.6					
22	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4	0	0.3	0.6					
24	0	0	0	0	0	0	0	0	1.1	0	1.3	1.3					
計	0.4	0	0.6	0.3	0	0	0	0	20.9	35.3	22.8	15.8		79.1	64.7	77.2	84.2

3. ネクタイ

トーン 色相	g				d				計				無彩色				
	全体	～30	～50	50～	全体	～30	～50	50～	全体	～30	～50	50～	全体	～30	～50	50～	
2	1.7	0	0.9	2.8	2.0	0	0.9	3.2	15.0	14.7	16.5	13.3	W	0.3	0	0	0.6
4	0.7	0	0.6	0.9	1.9	1.5	1.3	1.9	6.7	4.4	7.9	5.4	ltGy	3.3	2.9	2.8	3.8
6	1.4	2.9	0.9	1.6	1.4	4.4	1.6	1.6	6.0	13.2	5.4	6.0	mGy	5.1	2.9	5.1	5.7
8	2.0	0	1.9	2.5	2.4	0	3.8	1.3	14.6	11.8	18.0	11.4	dkGy	2.0	2.9	2.2	1.6
10	1.7	0	3.2	0.6	0.4	1.5	0.3	0.3	4.0	7.4	5.1	2.2	Bk	1.0	0	0.6	1.6
12	0.7	0	0.9	0.6	0.1	1.5	0	0.3	2.0	4.4	2.5	1.3					
14	0.3	0	0	0.6	0	0	0	0	1.3	1.5	0.3	2.2					
16	1.3	0	1.3	1.6	0.3	0	0	0.3	3.4	2.9	3.2	3.5					
18	3.0	0	2.2	4.4	2.0	1.5	1.9	2.5	25.3	22.1	22.2	29.4					
20	1.3	1.5	0.9	1.6	0.4	0	0.3	0.6	4.4	4.4	3.5	5.4					
22	0.9	1.5	0.6	0.9	0.3	0	0.3	0.3	2.1	1.5	1.3	3.2					
24	0.9	0	0.3	1.6	0.3	0	0.6	0	3.4	2.9	3.5	3.5					
計	15.9	5.9	13.9	19.9	11.6	10.3	11.1	12.3	88.3	91.2	89.2	86.7		11.7	8.8	10.8	13.3

* 「～30」は30歳未満、「～50」は30歳以上50歳未満、「50～」は50歳以上を対象とした。

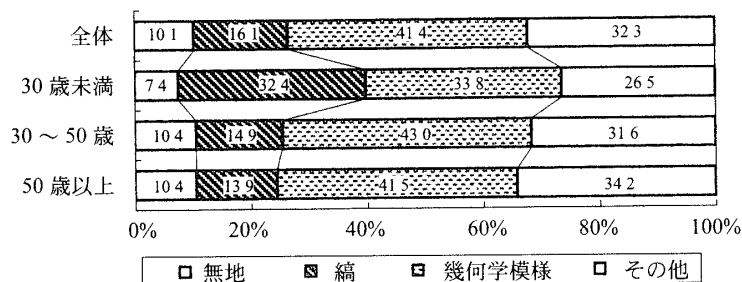


図3 ネクタイの柄の出現率(年齢別)

界別では、業界の方が有彩色を用いる傾向が強く、一般の人が着用する色彩は、青色相に集中しているのに対し、業界では黄色系統の着用も目立っている。

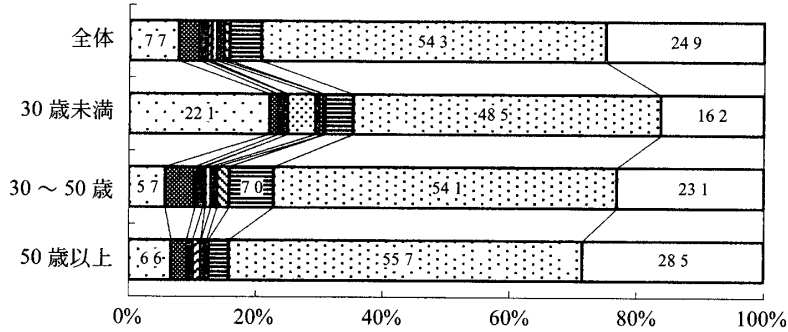
ネクタイの出現状況については、全体で最も多かったのが dk18 (紺) であり 13.4 % を占めており、次いで dk2 (臙脂) が多く着用されている。その2色以外はかなりばらついているが、色相別では色相番号 18 の青色相が全体の 25.3 % を占め、次いで色相番号 2 の赤色相と 8 の黄色相が 15 % 前後を占めている。年代別では、あまり差は見られないが、30歳以下では、トーン別で dk が半数近くを占め、集中している。一般の人と業界人の別では、一般の人は青色相が 30 % と集中しており、次いで、黄色相、赤色相の順で出現しているが、業界人は、赤色相が 20 % 以上で最も多く、次いで黄色相、青色相が各々 15 % 強で、順位の逆転をみせている。

ネクタイの柄の出現率については図3に示したが、どの年代とも幾何学模様が 30 ~ 40 % と高い出現率を示しているが、2位には 30 ~ 50歳、50歳以上ではその他の模様(幾何学模様以外の模様)が出現しているのに対して、30歳未満では縞柄の着用が多く、年代の差が認められた。また、業界人と一般の人との差については、業界の方が無地、縞、幾何学模様共に若干多く出現している。

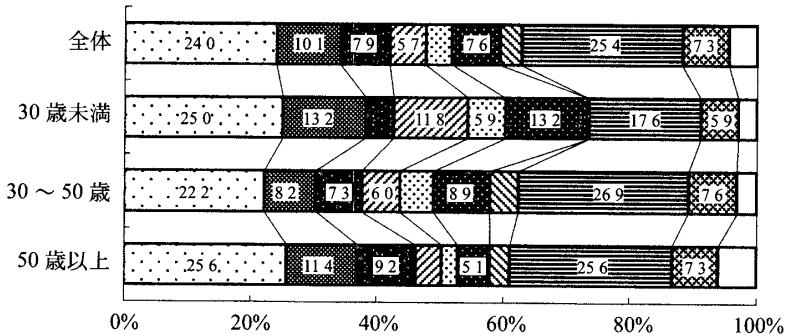
次にスーツ、ワイシャツ、ネクタイのアイテム間の配色について図4に示した。スーツとワイシャツについて、被験者全体をみると有彩色のスーツに無彩色のワイシャツを組み合わせている人が最も多く、半数以上を占め、次いで共に無彩色の人が 25 % 程度あった。有彩色同士で着用している人が 15.9 % と少ないのは、79 % の被験者が無彩色(特に白)のワイシャツを着用していることによるものである。なお、カラーワイシャツを着用している 146 名については、ワイシャツの色彩をスーツと同系の色相でまとめている場合が最も多く、次いで無彩色(灰色)のスーツと組み合わせている人が多かった。また、類似色相の組み合わせは若干出現しているが、対照や補色は色彩調和の理論からすれば調和しやすい配色であるにもかかわらず非常に少ない出現であった。なお、年代別にみると、いずれの年齢も有彩色のスーツに無彩色のワイシャツを組み合わせている人が最も多く、約半数程出現しているが、30歳未満においては、スーツ、ワイシャツ共に有彩色の人が多く、中でも同系色の組み合わせが全体の 20 % 以上を占めている。また、他の年代ではほとんどみられない対照色相の配色は、わずかではあるが出現している。30 ~ 50歳および50歳以上については、傾向としては全体と変わらないが、年齢が上がるにつれて、白のワイシャツに灰色のスーツという組み合わせが多くなっている。なお、業界人と一般の人との出現状況はかなり近いといえるが、業界の人の方が有彩色同士の組み合わせが多く出現している。

次に、スーツとネクタイの組み合わせについて、全体としては有彩色同士の組み合わせが 62.9

スーツとワイシャツ



スーツとネクタイ



ワイシャツとネクタイ

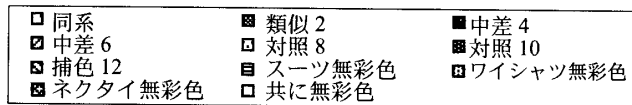
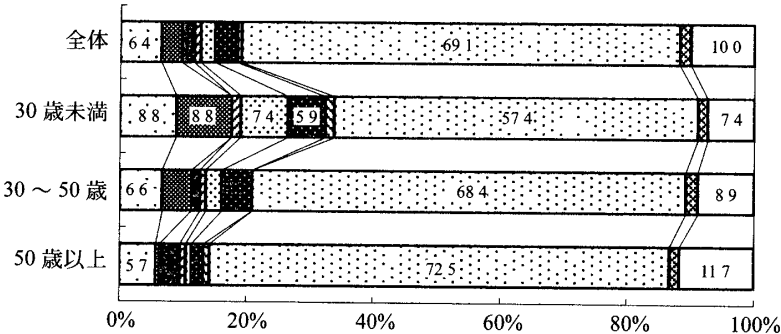


図4 アイテム間の配色

%を占め、無彩色のスーツに有彩色のネクタイの着用者が25%出現している。有彩色同士では同系色相の配色が全体の24%と最も多く、次いで類似配色が10%程度出現しており、スーツの色相とかなり近い色相からネクタイを選択している。なお、不調和領域とされる中差の配色や対照、補色配色ともに出現はわずかであった。

年代別の配色の違いについて、30歳未満においては他の年代に比べ、スーツ、ネクタイ共に有彩色の配色が73.5%と多く出現しており、この中で、やはり同系の色相の出現が最も多いが、色相差の大きい対照の配色もかなり出現しており、この年代の特徴といえる。30~50歳および50歳以上についてはほとんど同じような着用状況を示しているが、50歳以上の方がスーツ、

ネクタイ共に無彩色を着用している人が多いという結果であった。なお、業界人と一般の人との差はほとんど認められなかった。

また、ワイシャツとネクタイの関係について、全体ではワイシャツのみ無彩色の着用が70%弱、どちらも無彩色が10%と無彩色の比率が高いが、ネクタイのみ無彩色の人は1.7%と少なく、無彩色のネクタイを着用する人は、無彩色のワイシャツを着用する人が多いといえる。また、有彩色同士が19.1%出現しているが、同系の配色が6.4%、次いで色相差10の対照の配色が3.6%、類似配色が3.3%と続いている。対照色相については、色相差8の場合もあるが、スーツとネクタイの配色においても、色相差10の方が多く出現しており、黄色相と青色相の組合せが多いことが影響しているものと考えられる。年代別において、30歳未満では他の年代に比べ、有彩色同士の組合せが33.8%と非常に多く出現しているのに対して、どちらも無彩色はやや低くカラー化の傾向が伺える。また、有彩色同士では同系色相配色、類似色相配色が他の年代よりも多く出現し、さらに、対照色相についても他の年代と異なり、色相差10より8の方が多く出現していることから、30歳未満という若い世代の幅広いコーディネート傾向が現れている。30～50歳では、ワイシャツのみ無彩色が70%弱で、30歳未満より多く、それに対して有彩色同士の出現が少なくなっている。50歳以上については、ワイシャツのみ無彩色が非常に高い出現率を示しており、年代が上がるにつれて無彩色化の傾向が強くなっている。また、有彩色の配色についても、同系以外は年代が上がると共に減少しており、配色の方法が単一化しているといえる。なお、業界人と一般の人については、一般の人の方がワイシャツのみ無彩色が70%強であるのに対し、業界人の方は60%程度と少なく、逆に、有彩色同士の配色での着用が多くなっている。また、有彩色同士の配色の中では同系色相の配色が多く出現し、さらに、色彩調和の理論での不調和領域にあたる中差の出現は一般の人よりかなり少ないといえる。

3. 官能検査結果

先に示した7形容詞対について、スーツ、ワイシャツ、ネクタイを系統的にカラーコーディネートした42枚のスライドを用いて1998年と1996年に官能検査を行った結果を表3に示した。「フォーマルな—カジュアルな」について最もフォーマルなと評価をされたのは、96年では平均官能量3.38を示したdk18のスーツにp18のワイシャツ、g6のネクタイの組み合わせであり、98年では平均官能量3.83を示したmGyのスーツにp18のワイシャツ、dkGyのネクタイの組み合わせであった。逆にカジュアルなと評価されたのは、両年ともにg8のスーツにp18のワイシャツの試料であるが、全体的にネクタイの要素より、スーツの色彩が大きく影響し、g8を着用した場合ほとんどカジュアルなイメージに評価されている。

「ハードな—ソフトな」についてハードなと評価されたのは、96年では平均官能量3.58を示したdk18のスーツ、白のワイシャツにdk2のネクタイをコーディネートしたものであったが、98年ではスーツとシャツは同じ配色であるがネクタイがg8の試料で平均官能量は3.82であった。逆に、ソフトなと評価されているものは、mGyのスーツにltg18のネクタイである。全体的にみると、色相差の大きい対照色相の配色がハードなと評価され、同系や類似の色相のコーディネートがソフトなと評価されている。

「調和している—不調和な」について、最も調和していると評価をされたのは、96年では平均官能量3.49を示したdk18のスーツにp18のワイシャツ、ltg18のネクタイの組み合わせであったのに対し、98年では平均官能量3.46を示したmGyのスーツにp18のワイシャツ、ltg18のネクタイの組み合わせとなり、スーツの色彩のみが異なったものであった。逆に調和していないと評価されたのは、両年ともg8のスーツにdk18のネクタイであり、両年の評価は一見か

表3 平均官能量 (1998年・1996年)

試料番号 スーツ シャツ ネクタイ		1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14													
		dk18													
		w							p18						
		dk2	dk18	g6	g8	ltg8	ltg18	dkGy	dk2	dk18	g6	g8	ltg8	ltg18	dkGy
フォーマルな-カジュアルな	98年	2.97	3.18	2.86	3.71	2.60	3.26	3.20	2.88	3.09	3.08	2.88	2.57	3.11	3.40
	96年	2.93	3.33	3.19	3.27	2.82	3.24	3.13	3.07	3.23	3.38	2.35	2.75	3.29	3.26
ハードな-ソフトな	98年	3.31	3.37	3.77	3.82	2.95	3.17	3.17	3.23	3.00	3.42	3.97	3.09	2.75	3.38
	96年	3.58	2.77	3.11	3.30	2.63	2.62	3.20	3.16	2.88	3.30	3.00	2.96	2.86	3.24
調和している-不調和な	98年	2.55	3.40	2.15	2.82	2.25	3.60	2.92	2.32	3.68	2.60	1.60	2.28	3.40	3.06
	96年	2.30	3.33	2.67	2.38	2.58	3.44	2.56	2.47	3.20	2.64	2.65	2.29	3.49	2.86
高級感のある-安っぽい	98年	2.88	3.12	2.74	3.12	2.54	3.25	2.88	2.52	3.11	2.88	2.57	2.57	3.08	3.12
	96年	2.27	2.90	2.50	2.02	2.60	2.89	2.56	2.52	2.88	2.85	2.89	2.46	2.93	2.94
現代的な-古典的な	98年	2.74	2.98	2.62	2.40	2.91	3.06	2.49	2.62	2.97	2.72	2.54	2.78	2.91	2.52
	96年	2.56	2.99	2.40	2.11	3.00	2.81	2.40	2.52	2.99	2.45	2.51	2.82	3.05	2.38
好きな-嫌いな	98年	1.75	2.05	1.57	1.74	1.77	2.52	1.88	1.77	2.26	1.74	1.35	1.72	2.20	1.89
	96年	1.86	2.71	1.88	1.65	2.18	2.65	2.02	2.03	2.60	1.96	2.08	2.04	2.70	2.14
あたたかい-冷たい	98年	2.63	1.91	2.17	2.37	2.88	2.08	2.48	2.85	2.15	2.66	2.03	2.66	2.09	2.45
	96年	3.12	2.35	2.88	2.69	3.20	2.45	2.79	3.14	3.50	3.07	2.96	3.06	2.63	2.87

試料番号 スーツ シャツ ネクタイ		15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28													
		mGy5.5													
		w							p18						
		dk2	dk18	g6	g8	ltg8	ltg18	dkGy	dk2	dk18	g6	g8	ltg8	ltg18	dkGy
フォーマルな-カジュアルな	98年	2.97	3.18	3.26	3.71	2.55	3.03	3.03	2.88	3.11	3.18	3.08	2.48	3.52	3.83
	96年	2.95	2.79	3.10	3.01	2.70	3.01	3.32	2.74	3.11	3.20	3.01	2.64	2.96	3.24
ハードな-ソフトな	98年	3.31	3.29	3.06	3.46	2.52	2.89	2.92	3.03	3.23	2.82	2.88	2.60	2.74	3.57
	96年	2.73	2.82	2.85	2.93	2.75	2.47	3.38	2.96	2.92	2.99	2.94	2.69	2.49	3.24
調和している-不調和な	98年	2.52	3.45	2.80	3.14	2.35	3.40	2.40	2.55	3.29	2.63	2.51	2.26	3.46	3.05
	96年	2.62	2.13	2.98	2.96	2.01	2.86	2.86	2.20	3.06	2.93	2.87	2.34	2.71	2.82
高級感のある-安っぽい	98年	3.12	2.89	2.85	2.98	2.49	2.80	2.62	2.68	2.94	2.69	2.74	2.65	2.38	3.09
	96年	2.75	2.35	2.98	3.02	2.20	2.54	3.05	2.36	2.73	2.94	2.85	2.33	2.54	2.89
現代的な-古典的な	98年	2.77	3.15	2.61	2.43	2.94	2.86	2.68	2.89	3.06	2.75	2.63	2.80	2.37	2.66
	96年	3.17	2.79	2.82	2.85	2.82	2.80	2.67	2.64	2.82	2.74	2.74	2.83	2.83	2.71
好きな-嫌いな	98年	2.12	2.72	1.98	1.83	2.02	2.58	1.80	1.98	2.55	2.00	1.85	1.88	1.94	2.18
	96年	2.50	1.87	2.49	2.43	1.82	2.27	2.39	2.05	2.48	2.50	2.49	1.89	1.54	2.46
あたたかい-冷たい	98年	3.14	2.32	3.15	2.06	3.42	2.48	2.98	3.48	2.06	2.91	2.94	3.43	2.18	2.51
	96年	3.27	2.38	3.14	3.58	3.13	2.58	2.81	3.18	2.69	3.13	3.23	3.23	2.37	3.11

試料番号 スーツ シャツ ネクタイ		29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42													
		g8													
		w							p18						
		dk2	dk18	g6	g8	ltg8	ltg18	dkGy	dk2	dk18	g6	g8	ltg8	ltg18	dkGy
フォーマルな-カジュアルな	98年	2.46	2.32	3.06	3.00	2.49	2.62	3.20	2.48	2.40	2.92	3.18	1.98	2.58	2.91
	96年	2.56	2.55	2.82	2.54	2.67	2.20	2.86	1.80	2.73	2.85	2.90	2.56	2.56	2.95
ハードな-ソフトな	98年	2.91	3.14	3.02	2.77	2.29	2.85	3.32	2.62	2.88	3.03	2.89	2.74	3.03	3.14
	96年	2.73	3.17	2.77	2.75	3.25	3.29	3.18	2.95	2.89	2.81	2.88	2.50	2.94	3.05
調和している-不調和な	98年	2.78	1.45	3.25	3.37	2.97	1.85	3.03	2.94	1.72	3.09	3.18	2.65	2.15	2.25
	96年	2.54	1.45	2.98	2.99	2.32	1.49	3.18	2.39	1.57	2.93	2.94	2.38	1.48	2.81
高級感のある-安っぽい	98年	2.75	2.12	3.06	3.25	2.85	2.22	3.14	2.57	2.29	2.92	3.03	2.45	2.35	2.66
	96年	2.51	2.06	2.79	2.89	2.35	1.12	2.70	2.56	2.10	2.87	2.88	2.38	1.98	2.81
現代的な-古典的な	98年	2.71	2.45	2.54	2.68	2.68	2.48	2.68	2.74	2.54	2.42	2.63	2.52	2.42	2.52
	96年	2.75	2.65	2.90	2.96	2.75	2.90	2.75	2.08	2.75	2.82	2.81	2.85	2.65	2.80
好きな-嫌いな	98年	1.77	1.38	2.06	2.20	1.89	1.63	2.02	1.78	1.68	1.95	2.06	1.58	1.55	1.78
	96年	1.98	1.33	2.43	2.63	1.90	1.30	2.12	1.99	1.58	2.40	2.31	1.85	1.37	2.19
あたたかい-冷たい	98年	3.69	2.58	3.28	3.28	3.45	2.57	3.00	3.62	2.38	3.26	3.23	3.89	2.66	2.63
	96年	3.70	2.92	3.48	3.62	3.39	3.13	3.25	3.67	2.76	3.28	3.67	3.29	2.85	3.29

なり近似していると思えるが、相関は高くなかった。しかし、同系の色相内でのコーディネートは調和しやすく、逆にスーツ、ネクタイ共に暗い配色については、調和しにくいといえる。

「高級感のある－安っぽい」について高級感のあるものは、ばらついており、検査年の違いやスーツ・ネクタイの色彩に大きな影響は認められなかった。しかし、ワイシャツについては、カラーワイシャツより白を組み合わせた方が、評価は高級感のある方に傾く傾向が認められた。逆に、スーツとネクタイが対照色相の配色の場合、安っぽい感じを与えやすいといえる。なお、g8 のスーツは他の2色に比べ、合わせるネクタイの色によって、イメージがかなり変化することが明らかになった。

「現代的な－古典的な」についても兩年の相関は低く、現代的と感じられる色彩が茶系から紺系へ移行している。しかし今回の試料は全体的に古典的と評価されているものが多く、その中で特に古典的など評価されたものは、g8 のスーツに p18 のシャツ、dk2 のネクタイをコーディネートしたものであった。

次に、「好きな－嫌いな」について好きなと評価されたのは、96年では平均官能量2.71を示した dk18 のスーツに白のワイシャツ、dk18 のネクタイを組み合わせたものであったが、98年には平均官能量2.72の mGy のスーツに白のワイシャツ、dk18 のネクタイを組み合わせたものに変化している。嫌いなと評価されたものは、兩年とも色相が同じであり、対照色相の配色が低い評価であった。

「あたたかい－冷たい」について最もあたたかいと評価されたものは兩年共 g8 のスーツに白のワイシャツ、dk2 のネクタイをコーディネートしたものであり、平均官能量は96年には3.70、98年には3.69であった。逆に冷たいと評価されたのは、スーツ・ネクタイ共 dk18 でコーディネートしたものであった。しかし、全体的にはネクタイの影響よりスーツの色彩が関与し、dk18 と mGy のスーツは冷たいイメージがあり、g8 のスーツは暖かいイメージが強いという結果であった。

これら7形容詞対の評価について、仮にスーツの色が同じであってもネクタイやワイシャツの色彩が変わることにより、イメージも大きく変化することが明らかになり、コーディネートの重要さが認識される結果となった。

しかし、街頭調査やテレビ画面での調査において、比較的多く出現した dk18 のスーツや dk18 のネクタイ、さらに配色としては色相の同系の配色等は、官能検査においても「調和している－調和していない」について調和する色として高い評価を得ており、適切なコーディネートがなされていると思われる。

要 約

メンズスーツの審美性を検討するために、街頭調査およびテレビ画像により着用状況を調査し、さらに系統的なカラーコーディネートを作り、視覚判定による官能検査を行った。

1. 街頭調査の結果、同じ名古屋市内でも周辺にある会社の業種が影響し、スーツ、ネクタイとも出現する色彩は大きく異なり、地域差がみとめられた。
2. テレビの映像調査では、加齢と共に無彩色化の傾向が伺えた。また、スーツとネクタイは、同系・類似色相の配色が多く出現し、スーツと近い色相のネクタイを選択している。
3. 街頭調査やテレビの映像調査より、中差や対照、補色配色ともに出現はわずかであった。また、比較的多く出現した dk18 のスーツやネクタイ、さらに色相の同系配色等は、官能検査でも調和する評価を得ており、適切にコーディネートされている。

4. 官能検査の結果より、対比の配色を用いるより同系の色相内でのコーディネートの方が比較的調和しやすいという結果が得られている。しかし、普段よく見かけるコーディネートにおいても官能検査においての評価は低いものも多く出現しており、組み合わせへの配慮が必要である。

文 献

- 1) 岩下豊彦：SD 法によるイメージの測定，106～129，川島書店（1987）